

ハンマーナイフモアを利用した茶の台切更新の推進

要約

老朽茶園の増加に伴う生産量及び品質低下の対策として、改植に比べて未収益期間が短く樹勢回復効果の高い台切更新を推進。村・JAと連携した機械リースや補助事業の活用支援、定期的な茶園調査による効果の検証を行った。

現状(背景)と課題

- ・ 経済樹齢を過ぎた老朽茶園が多く、生産力が低下。
- ・ 生産力の回復には改植が有効だが、未収益期間が長く、労力負担も大きい。
- ・ 未収益期間が短く、省力的な生産力回復方法が必要。

目標

- ・ ハンマーナイフモアを利用した台切更新面積 0.5ha

活動内容

- ・ 対象者：山添村茶生産組合
- ・ 講習会等を通じ、台切更新の必要性、関係補助事業を紹介し、台切更新を啓発。
- ・ 台切更新茶園の生育調査を定期的に行うとともに、個々に合わせたタイムリーな指導を実施。
- ・ 現地検討会を開催し、生産者どうして生育状況を確認するとともに、整枝法等の管理指導を実施。

成果

- ・ ハンマーナイフモアを利用した台切更新面積 0.9ha (3名実施) (累計3.04ha)
- ・ 生育調査により更新3年目の一番茶より、乗用摘採機で摘採できることが実証



講習会風景



台切更新2年目の茶園 (10月30日)



ハンマーナイフモアによる台切更新の様子



老朽茶園の葉(左)と更新2年目の葉(右) (3月10日)

普及活動のポイント

- 茶の生産性向上に向けた台切更新の必要性・効果及び関係補助事業について講習会で説明。
- 山添村が村単独で機械リース費用の補助を事業化、JAが機械リースと国の所得補償事業の事務を担当、普及が台切更新の啓発・技術指導と役割を明確にして台切更新を支援。
- 山添村農業推進協議会と連携し、台切更新の展示圃を設置。
- 台切更新茶園の生育調査を定期的な行い、管理指導や啓発活動における資料として活用。

対象の変化

- 村、JA、普及が一体となった支援活動により、生産者の理解が更に強まった。
- 台切更新後の定期的な生育調査と現地検討会の開催を通して、更新後の茶樹の生育の早さと未収益期間が短いことを生産者に実感してもらえた。

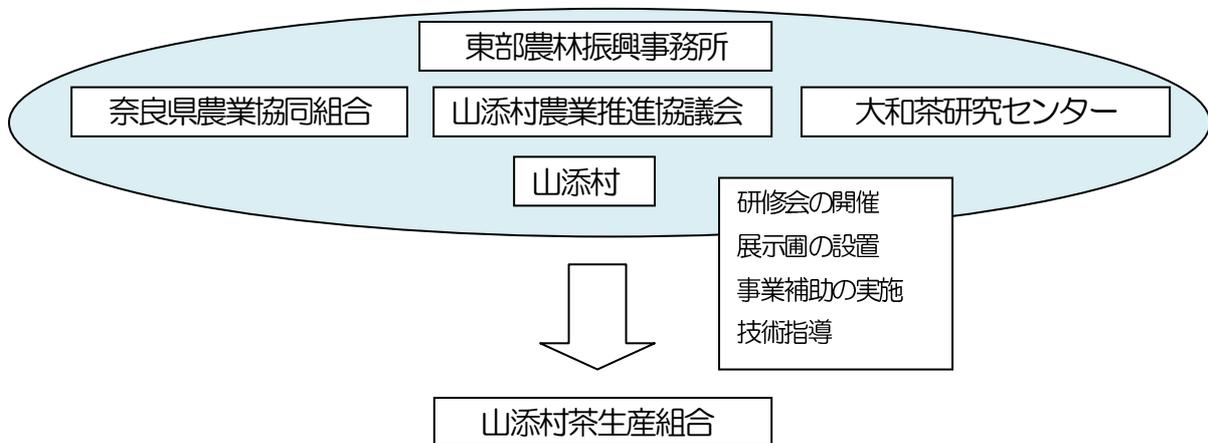
対象者からのコメント

- 老朽茶園の更新に引き続き、台切更新を推進していきたい。(山添村担当者)

これからの活動ビジョン

- 更新3年目の一番茶より乗用摘採機で摘採できることが実証されたことから、この結果を基に更なる台切更新の普及推進を図る。
- 生産者個々の経営規模に合わせた台切更新の推進を目指す。

活動体制



用語解説

台切更新

農業用機械ハンマーナイフモアを用い、茶樹を地上部15cm以下で刈り取り、樹勢を回復させる技術。未収益期間が、苗の改植では4～5年に対して2～3年と短いといったメリットがある。

ハンマーナイフモア

回転式フリーハンマーを装着したクローラ走行型の除草機。

